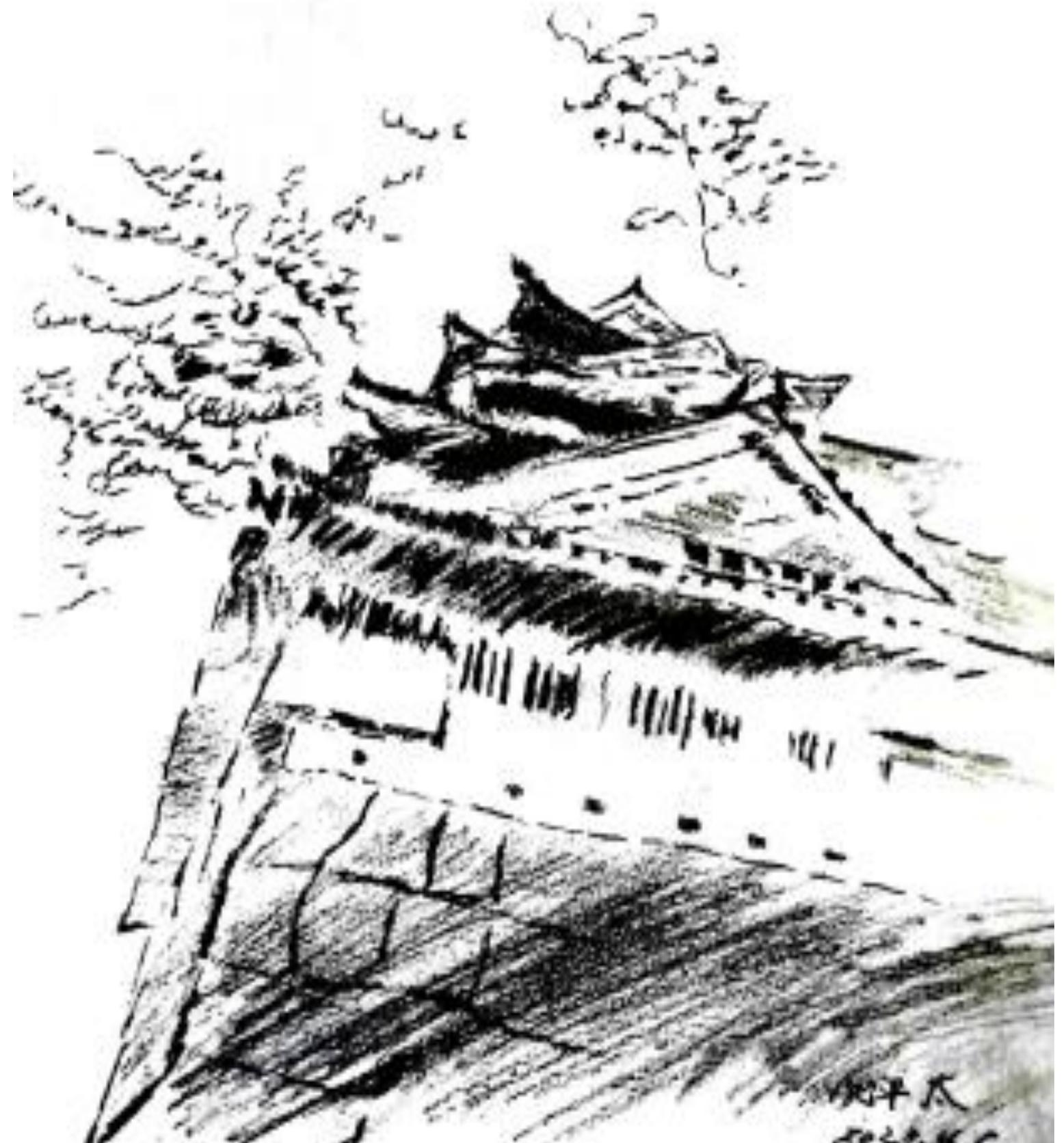


# 閣守天柳川

2024年4月号



第12回例会 2024年3月15日(金) 投句締切分

お題 「野暮」

島根写太 選

野暮でんなあまだ聞くんかい葉指  
野暮ですかホントのことを言っただけ  
思い出を遺影に語る野暮な人  
人の恋路茶々を入れ出す野暮な奴  
遠まわしに言ったら鈍いスカンタコ  
高学歴高収入だが野暮ったい  
野暮亭主の尻ぬぐいする妻の役  
困み取材神対応のない御仁  
人生の遊里の事情知らぬ初(つぶ)  
野路暮れてここが思案の分かれ道  
思い込み石はダイヤで花はバラ  
野暮なこと聞くなよと目で合図する  
友達を恋人と聞く野暮な父  
元カノとは逢っていないか聞いてみる  
また会おう言っただけで野暮のまま  
少しだけ野暮を残して粹になる  
返納を出来ず運転まだしてる  
見かけても野暮になるからそとと去る  
わかってね気持ちわからぬ野暮な人  
メール相手の名前まで聞きたがる

(五客)

佳5 野暮な奴キモイ奴とは紙一重

林ともこ  
岡野とら丸  
東尾由子  
久世高鷲  
波部珀兎  
波部珀兎  
久世高鷲  
小林満寿夫  
井澤壽峰  
青鬼堂一宇  
下谷憲子  
由夏  
堀内きみ子  
信子  
直子  
ルイ  
春田敏晴  
浜脇蓬生  
ルイ  
信子  
勘兵衛

(三才)

佳4 野暮天のまだ上を行くうちの人 青鬼堂一宇  
佳3 二人には野暮煌煌と月明かり 山野寿之  
佳2 赤い薔薇プラトニックのままがいい 直子  
佳1 恋文と知らずに読んでいる貴方 平川柳  
人 熱いキス出るに知られぬ雲の月 真鍋心平太  
地 初恋の彼女に野暮なエンディング 岩原一角  
天 俄雨ペアに差し出す傘二本 山野寿之  
軸 変しいと本気で綴るラブレター 島根写太

(選評)

人の句

大人の恋ですね、キスや恋を作品に取り入れることは勇気がいる  
と思いますが品格を添えて見事に描写されました。  
川柳は人を詠む文芸、その中でも男と女は究極のテーマと私は信じ  
ています。

地の句

高校生っぽい状況でのシチュエーションが素敵でその頃はまだ恋  
愛も未熟ですね。  
ご自身の体験でしょうか、新鮮な感覚に拍手を贈ります。

天の句

本降りになって出ていく雨宿り との古川柳がありますがまだ俄雨なの  
で回りが気を利かした積りがこれは・野暮・ですよ  
詠み込みしやすい・野暮・の課題ながら詠み込まずにまとめた手腕が見事  
です。

他の句も含めて佳句に出会えありがとうございました。

# お題 「伝える」

波部珀兔 選

お返事は桜吹雪になりました  
愛情を紙風船に伝える手

直子

インディングノートおあとは御自由に

東尾由子

見習いにスキル伝える黒軍手

下谷憲子

ラストアンサーかしら流れ星

山野寿之

言わなくても心伝わる尉と姥

真鍋心平太

行間に言いたいことが滲み出る

堀内きみ子

もう今は伝えられないパスワード

岡野とら丸

砂を噛むばかり戦禍を行く瓦礫

林ともこ

伝言を頼まれ妙に落ち着かず

小林満寿夫

遺伝子が上手く伝えて酒好きに

佐野正邦

今日中に話をしたただけなのに

佐野正邦

恋文の伝える力侮れぬ

信子

母さんとまだ繋がっている糸電話

ルイ

鶴力カタカタと愛伝え

春田敏晴

口笛を吹けば伝わる闇バイト

由夏

ずる休みなんと言おうかアレコレと

船木しげ子

真実を伝えることの難しさ

青空

亡き母を偲ぶ砵を打つ音に

信子

今日も又妻の伝言独り飯

小林満寿夫

あの人と伝言板の秘密基地

堀内きみ子

## (五客)

佳5 再婚をしたと伝える黄泉の母

島根写太

佳4 ガーベラの色で伝える花言葉

勘兵衛

## (三才)

佳3 四年振り歓喜伝わる素手と素手

山野寿之

佳2 人づての噂話が化けている

岡野とら丸

佳1 振り込まれ父権を無くす伝書鳩

島根写太

人 もう何も言えず聞いている発車ベル

真鍋心平太

地 百歳で会おうか千葉の友の文

武智三成

天 語り部の心掴んだ名調子

由夏

軸 カツラでしたとカミングアウト潔い

波部珀兔

## 選評

### 人の句

ホームでの見送り、発車のベルが鳴り止んで電車が動き出すまで  
涙を堪えるのが精一杯で無言のまま。悲しい別れの句だが、  
読むものにそのシーンが伝わり胸を打つ。

### 地の句

遠く離れている友とは中々会えないが、百歳で会おうという  
手紙とは！ オーバーだがそれゆえに互いに長生きをという  
思いが伝わり、同士ならではの激励の句で私も元気を貰えた。

### 天の句

語り部とは講談師や落語家など昔話歴史等を現代に語り継ぐ人。  
無声映画の活動弁士も近いかも知れない。人物の長台詞も独特の  
言い回しで観衆の心を掴んで離さない。  
この句はお題の「伝える」にピッタリで私の心も掴まれた。

# お題 「雑詠」

真鍋心平太 選

- 種を割り小さく吐息芽を吹かす  
断捨離も残したダンボール箱の本  
合格で古い教科書屑箱へ  
カササギと共に宇宙へ行きましょう  
風を切る肩に花びら一二片  
居なければやっぱ淋しい飲んだくれ  
昔かたぎのままではおじぎ草  
旅団ですしやれこうべを踏んでいく  
癒やされるメール来るのはたまにです  
年頃のすばら老後は若返る  
新人は勧誘電話も初々しい  
宮城野に物言いついて部屋終い  
綾取りで親子の絆固結び  
物忘れ老いる二人で大笑い  
子の稼ぎ増えだしよぎる闇バイト  
新鮮な切り口にあるチャンスの芽  
厳寒に耐えて蕾の自己主張  
能登地震基金にアリが群れをなし  
花札の鶴はほんとはコウノトリ  
三寒四温春待ちかねる灯油切れ
- ルイ  
小林満寿夫  
勘兵衛  
直子  
下谷憲子  
林ともこ  
船木しげ子  
岩原一角  
信子  
東尾由子  
浜脇蓬生  
青鬼堂一宇  
久世高鷲  
青空  
松島きよみ  
岡野とら丸  
井澤壽峰  
加山勝久  
由夏  
堀内きみ子
- 波部珀兎  
佐野正邦  
平川柳

(五客)

- 佳5 修正出来ずブレた時代もなんか良い  
佳4 春よ来い三寒四温の焦らし雨  
佳3 旅まわりジェルソミーナの白い道

- 佳2 ケセラセラ思うがままに生きたかな 武智三成  
佳1 年寄りの傘から杖に雨上がり 山野寿之

(三才)

- 人 半ボケでも生きる 迷惑かけても 島根写太  
地 月浴びるやと耐性できてきた 直子  
天 二十億光年前の君と逢う 平川柳  
軸 お水取り松明の火があたたかい 真鍋心平太

(雑詠選評)

人の句

この開き直りが川柳ですね。「半ボケ」も鋭い指摘です。  
俺は大丈夫と思っている人も間違はなく半分は惚けている。  
それでも「生きる」と凶々しいところが人間らしくて笑える。

地の句

月を見ると人は優しく弱くなる。  
人間を優しく弱くするために月は作られたのだそうだが、この句はそれに耐性が出来ると言っている。人間に対する鋭いうがちの句だ。

天の句

そうか。今日の前にいる君は二十億光年前の君だったのか。  
人生百年もあつという間だったけれど、こういうことなら  
さもありませんと言いつ気がする。  
二十億光年経ってまた会える日が待ち遠しい。

# お題 「動く」

互選

1点

△この命令だけでヒト動く

高騰の株価置いてけぼりにする

こたつの中から動けず二度寝

運命線とぼとぼ歩く老夫婦

前進の動く歩道で急かされる

公園のベンチでおろおろする銀杏

増えるドジつまづくこけるスクワット

グルコサミン私の膝が動き出す

ロートルの動き素早し座席取り

張り込みの白いカーテンじつと見る

春物に心が動くシヨピング

春になり動く元氣を取り戻し

動くたびかけ声かけてヨッコラシヨ

地球儀を象が時代を駆け巡る

鳴動の大地恐怖の大地震

いち抜けるわたしの椿守るため

揺れ動く結婚話デイト中

港から沖へ零れてゆく時間

ボランテア能登の災害動く愛

雲の船ばかりと浮いてゆるりゆり

商店街鰻蒲焼き鼻動く

揺れ動く心捉える山頭火

揚げ句こそ動く己を取り戻し

動くのが一苦労なり冬の夜

家と社の往復だけの動力車

寝返りへ心が動く力ネと地位

手足口姑元氣良く動く

ゆるされてしまったのかも動く月

島根写太

小林満寿夫

浜脇蓬生

平川柳

ルイ

小林満寿夫

松島きよみ

春田敏晴

青鬼堂一宇

春田敏晴

堀内きみ子

岩原一角

由夏

平川柳

井澤壽峰

直子

久世高鷲

船木しげ子

東尾由子

ルイ

堀内きみ子

林ともこ

岩原一角

勘兵衛

島根写太

岡野とら丸

東尾由子

直子

4点 肩が動く笑っているか泣いているか

発車ベル見交わしている汽車の窓

5点 朝刊の黎明動くバイク音

あの日から時は動かぬ震災忌

坂登る機関車喘ぐ僕に似て

自動ドア性善説を拒否出来ず

非正規が動く正規は見てるだけ

6点 胎動にパパ実感を噛み締める

7点 匙加減ひとつで動く夫と居る

8点 花冷えにひなた探して漕ぐペダル

早起きのお乳まさぐる紅葉の手

どこへでも飛べる指輪を外したら

9点 まだ動く捨てられませんか我が亭主

10点 こつそりとラジオ体操する埴輪

11点 私を励ますように心電図

信子

真鍋心平太

山野寿之

浜脇蓬生

佐野正邦

岡野とら丸

山野寿之

久世高鷲

林ともこ

波部珀兎

松島きよみ

下谷憲子

青鬼堂一宇

船木しげ子

真鍋心平太

得点があるものをすべて点数順に掲載しています。  
得点が空白のものは前行の句と同得点です。

今月の投句者（28名 敬称略）

井澤壽峰 加山勝久 久世高鷲 勘兵衛 島根写太

山野寿之 岩原一角 信子 春田敏晴 東尾由子

武智三成 平川柳 ルイ 波部珀兎 松島きよみ

小林満寿夫 真鍋心平太 舟木しげ子 青空 林ともこ

青鬼堂一宇 浜脇蓬生 直子 由夏

岡野とら丸 堀内きみ子 下谷憲子 佐野正邦

**太字の方は初参加です。**

今月投句者は28名、初年度目標30名に迫りました！  
皆様ご参加、ご協力ありがとうございました。

# お題 「卒業」短句

互選

1点

今日学び舎を我ら飛び立つ  
卒業式やはり師の恩忘れじと  
再会誓い恩師手を振る  
卒業しても同じ高校

久世高鷲

加山勝久

久世高鷲

ルイ

林ともこ

由夏

武智三成

青鬼堂一宇

ルイ

浜脇蓬生

直子

由夏

小林満寿夫

加山勝久

波部珀兎

林ともこ

直子

堀内きみ子

2点

巣立つ子を見送る母の眼差し  
第二ボタンの想い出数多  
いずれ卒業空澄んでいる  
鍍金剥がれて紳士卒業  
壇上の花卒業祝う

卒業できぬ風呂上りビール

奈落の底で決める卒業

時代それぞれ卒業の歌

畏まる手に乗る卒業証書

白寿来て私の人生卒業式

丁度よい潮時再チャンス

仕送りやつと卒業の朝

卒業証書椿一輪

登山卒業札所を巡る

3点

卒業の日に溢るる涙  
領収書です卒業証書  
やつと母子家庭卒業を待つ

井澤壽峰

岡野とら丸

東尾由子

堀内きみ子

下谷憲子

松島きよみ

真鍋心平太

春田敏晴

平川柳

山野寿之

真鍋心平太

松島きよみ

岡野とら丸

春田敏晴

山野寿之

浜脇蓬生

信子

4点

卒業祝い諭吉喜ぶ  
あしたになれば道はそれぞれ  
螢の光り聞かず寂しく

5点

振り向きません雨に濡れても  
さみしいけれどこれがスタート  
また逢う日まで白い指切り

真鍋心平太

春田敏晴

平川柳

6点

趣味の虜に遠い卒業  
プラトニックなままでさよなら  
大学卒業親も卒業

山野寿之

真鍋心平太

松島きよみ

岡野とら丸

春田敏晴

山野寿之

浜脇蓬生

信子

7点

酒を卒業出来ず留年  
今日から僕はバックパッカー  
人間を卒業白い骨  
明日になればみんな羽ばたく  
クビとは言わず卒業と言う

山野寿之

浜脇蓬生

信子

9点

クビとは言わず卒業と言う

信子

## 「合同句集 Sennari」

真鍋心平太

半蔵門さんにまた会いたくて昨年4月に始めたウェブ川柳天守閣も今回で12回一周年を迎えた。誠にありがたいことである。初回参加者は12名、今回は28名で当初目標にかかげた30名には少しとどかなかった。

立ち上げから応援をして頂いた武智三成さん、立蔵信子さん、船木しげ子さんには感謝である。また当初から半蔵門さんのご縁でエールを頂いた江崎紫峰さん、平川柳さんにもお礼を申し上げる。

特に平川柳さんとは入選句感想やコメント欄でも内容のある交流が出来たし、今年の一月からは「現代川柳の詩学」を連載を頂いており今後のウェブ川柳天守閣の展開にも大きな力を頂いている。今年に入ってからからの会員の急拡大には日川協の常任幹事でもあられる山野寿之さんに多大な尽力を頂いているようで誠に心強い。

旧天守閣のデータベースを引き継げたこと。今年の1月から短句を宿題に入れて関西での短句の流れを引き継げたこととで天守閣の形はこれで残せたのではないかとほっとしている。今年はこの形を個人ではなくシステムとして運営出来るものにして天守閣の永続を図ることに注力したいと思っている。川柳天守閣が永遠であることを願って。

個人的にもエッセイや趣味の鉛筆画を掲載して楽しませて頂いた。へっバーン、シャンジュ・シュバリエ、弟との思い出に寄せた含羞草、フェルメールについての交流などが印象に残っている。皆様本当に楽しい時間をありがとうございました。

さて、その一周年記念のイベントとしてお約束したように合同句集を作成したいと思っており、その句集のタイトルを大阪城天守閣にちなんだ千成瓢箪から「Sennari」とした。

句集はウェブならではの電子ブックスタイルでスマホでの閲覧に適するように、フォト川柳や句文集風なページを加えてお一人毎に作成出来るようにして、そのひとつひとつが瓢箪という目論見である。

今後とも一年間の投句でデータベースには120句の句が集積され毎年句集が一冊増えていくという塩梅でお楽しみいただけたらと思うている。

今年の瓢箪は28個であるが、いつか千成瓢箪になる日を夢見ている。ということと、今月は巻末の絵の代わりに合同句集「Sennari」のベータ版を掲載する。完成版句集作成の詳しいご案内は別途行います。

川柳天守閣 連載 評論「現代川柳の詩学」を考える ③

呉陵軒可有の「一章に問答」という語の初出と意味

十八世川柳宗家 閑成庵川柳 平 川柳（東京川柳会主宰）

「一章に問答」という語は『誹風 柳多留』の二十九篇の「序」に初めて登場します。この「序」は「雪成舎菅裏」（二世花屋久次郎）が寛政十二（一八〇〇）年に書いたもので、そこには、呉陵軒可有が「一章に問答」という語について常々語っていたと記されています。

呉陵軒可有が没したのは一七八八（天明八）年であり、初世川柳 柄井川柳が逝去したのが一七九〇（寛政二）年ですから、呉陵軒可有がこの「一章に問答」という語を常々語っていたのは、遅くとも天明八年以前であることがわかります。

一七五七（宝暦七）年に柄井川柳は「前句附」（まえくづけ）の点者（選者）として活動を始め、一七八九（寛政元年）年まで三十三年間、点者を務めました。当時、懸賞募集形式の「前句附興行」が流行し、江戸ではそれを「万句合」（まんくあわせ）と呼んでいました。柄井川柳が選者を務めた「万句合」は「川柳評万句合」（せんり

ゆうひょうまんくあわせ）と言われました。その入選句は一枚摺りで配られました。「前句附」は題として出された「前句」（七七）に「附句」（五七五）をつける文芸です。宝暦七年の「川柳評万句合」に次の「附句」があります。

#### 五番目は同じ作でも江戸生まれ

「前句」は「にぎやかな事、にぎやかな事」です。これは『誹風 柳多留』（初篇）の巻頭に置かれた句です。江戸の六体の阿弥陀仏の内、五体は江戸の郊外にありますが、「五番目」だけが、江戸の上野の常楽院にあることを「江戸生まれ」と表現しています。こうした「川柳評万句合」の「附句」の中から「前句」を省いても「句意」のわかる「一章に問答」があるものを収録したのが『誹風 柳多留』です。『誹風 柳多留』の二十九篇の「序」で「菅裏（かんり）」は「今の前句は一章に問答あつて」と呉陵軒可有が語ったことを記しています。これは「川柳評万句合」の「附句」の中から『誹風 柳多留』に呉陵軒可有が「一章に問答」のある「川柳点の前句附」を選んだことを意味しています。次回は「内在律」です。（続く）

# 第13回 ウェブ川柳天守閣 ご案内

お題 「根負け」 加山 勝久 選  
「根回し」 久世 高鷲 選  
「化粧」 互 選  
「雑詠」 真鍋心平太 選  
「夜明け」(短句) 武智 三成 選  
(投句 各 2 句)

左記の投句、互選投票、結果発表の閲覧は  
下記 URL から可能です。

[http://excellan.kir.jp/ten\\_reikai/web\\_siyu\\_menu.php](http://excellan.kir.jp/ten_reikai/web_siyu_menu.php)

投句、互選投票は会員登録が必要です。

会員登録は下記 URL より

[http://excellan.kir.jp/ten\\_reikai/id\\_make.php](http://excellan.kir.jp/ten_reikai/id_make.php)

投句開始 2024年4月9日(火) から  
投句締切 2024年4月15日(月) まで  
互選投票 投句締切後下記の期間内に投票して下さい。  
4月16日(火)～4月19日(金)  
披講発表 4月20日(土)から随時閲覧可能になります。

スマホは下記 QR コードから



投句・閲覧



会員登録

ウェブ川柳天守閣  
Sennari 2023



編集者 真鍋心平太  
発行所 滋賀県大津市逢坂一丁目8-1  
川柳天守閣

合同句集 Sennari2023

(クリックすると大きくなります。)

二〇二四年三月二十五日発行  
ウェブ川柳天守閣会報

(発行責任者 真鍋心平太)

(編集人 真鍋心平太)

(事務所)

〒 520-0054

滋賀県大津市逢坂一丁目8-1

サンルシエル大津607号室

川柳天守閣

Tel・fax 077(532)4211

携帯 080(2672)4446